ジョー・ベイリー・ウェルズ主教

こんにちは。宗教間関係についてのウェビナーへ、ようこそ。こんにちは、ボンジュール、ブエナス・ディアス。世界中どこにいても、ようこそ。私はジョー・ベイリー・ウェルズで、ランベス・コールを聖公会全体に広めるチームの一員です。ご存知の通り、今日のウェビナーは宗教間関係に焦点を当てます。このウェビナーの終わりまでに、この第 3 段階の旅、ランベス会議からの呼びかけに、ご自身の声を添えたいという気持ちになっていただければ幸いです。メールアドレス（shareryourstory@lambethconference.org）が表示されますので、これらの呼びかけに関連して、あるいはそれに応じて行ったことについて、ぜひお聞かせください。聖書研究会の開催、植樹、セーフチャーチの担当者の任命、あるいは今日は宗教間関係の対話への参加することかもしれません。

さて、本題に入る前に、共に祈りましょう。全能の神よ、この日を感謝いたします。世界中のアングル間コミュニオンを通じた交わりを感謝いたします。あなたが創造されたこの多様性に富んだ世界に感謝します。私たちを導いてください。あなたの霊によって、私たちが世界のあらゆる信仰を理解し、尊重する方法を知ることができますように、同時に私たちの主である、十字架につけられ、復活されたキリストを宣べ伝えることができますように。私たちの救い主イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。

今日はランベス・コールについてお話しします。キリスト者が他の宗教の人々と関わり、信仰を宣べ伝える働きに、このコールがひらめきとなることを願っています。世界各地のゲストから、宗教間関係への取り組みについて伺います。最後に、グループディスカッションのための新しい聖書研究資料をご紹介します。このコールをさらに深めていただければ幸いです。コールはランベス会議のウェブサイトでご覧いただけます。

本日は、東南アジア聖公会クチン教区のダナルド・ジュート主教をお迎えしています。ダナルド主教は、聖公会諸宗教委員会の委員長を務め、ランベス・コールのウェビナー全体の運営グループにも参加されています。現在、ジュート主教と私はカザフスタンのアスタナで、諸宗教間関係に関する指導者会議に出席しています。私たちは、架け橋を築き、平和を創る目的でここに来ています。それでは、ダナルド主教、ようこそお越しくださいました。まずは、ランベス・コールの諸宗教間関係についてお話しいただければ幸いです。

ダナルド・ジュート主教

ジョー主教、ありがとうございます。このウェビナーでお会いできて、大変嬉しく思います。はい、宗教間関係に関するランベス・コールは、2022 年にカンタベリーで開催されたランベス会議において主教たちによって発せられたもので、教会に属する私たち全員が祈りと実践を通して応えるよう呼びかけています。この呼びかけは全文をお読みいただく価値があります。ランベス会議のウェブサイトでご覧いただけます。

この呼びかけは、他の宗教や様々な伝統、信仰を持つ人々と共に、共通の善のために働くこと、宗教コミュニティを超えた隣人同士の平和構築に取り組むこと、迫害に直面する他のキリスト者たちとの連帯を示すことを促しています。確かに私たちもそのような状況に直面するでしょう。キリストの弟子である私たち全員に、言葉と行い、そして謙虚な奉

仕を通して、他の宗教的伝統を持つ隣人たちに、信仰を証しするよう、具体的かつ力強く呼びかけています。そこでこのウェビナーでは、招かれたゲストの方々の協力を助けを借りながら、これらのことを実践する様々な方法を学び、私たちに何ができるかを探ります。素晴らしいですね。

ジョー主教
　ダナルド主教、ありがとうございます。次の質問は、あなたが主教を務めるクチンについてもう少し詳しくお伺いします。現地でキリスト者として生きる状況や異なる信仰を持つ人々に、どのように働きかけ、奉仕しているかをお聞かせいただけますか？

ダナルド主教
　はい、クチンはマレーシアの一部です。クチンの主教として、私はサラワク州とブルネイを担当していますが、今回はマレーシア国内の状況に焦点を当てたいと思います。マレーシアは国民の大部分がイスラム教徒で、人口の約 64%がイスラム教徒、17%が仏教徒、9%がキリスト教徒、6%がヒンズー教徒で、残りは無神論者や無宗教を自称する人々です。したがって、イスラム教が連邦の国教となっていますが、憲法では他の宗教も自由に実践できると定められています。しかし、実際の日常生活では、そうではありません。これは主に、少なくとも政治家やイスラム教徒が理解しているイスラム教の法的・憲法上の地位によるもので、結果として他の宗教を信じる人々は、礼拝や布教において圧力を感じています。私たちの場合、福音宣教や神のみ業の拡大（例えば新教会の建設や墓地などの拡張用地取得など）においても問題に直面しています。私や他の宗教指導者たちは、協力関係を築きたいと願っていますが、当局や政府、イスラム教指導者から頻繁に妨害や問題にさらされています。彼らは私たち非イスラム教徒を異教徒と見なしているからです。よく使われる言葉は、私たち非イスラム教徒は「カフィル」だということです。この言葉はマレーシアではそれほど悪い意味ではありません。「カフィル」という言葉は、「大きい」「不潔」「汚い」などを意味するため、非常に軽蔑的な言葉として使われます。しかし、私たちは決意を固めています。サラワク州には、政府内に他宗教のための部署が設置されています。イスラム教以外の宗教が協力し合う場所であり、私たちも皆熱心に取り組みを続けてきました。私たちが共有しているのは、祝祭行事です。平和と団結、より良いマレーシアとサラワクへの願いを確かなものとするために、そしてもちろん神の言葉を宣べ伝えるために、私たちは共に多くの取り組みを行っています。ですから、私たちは神の恵みに感謝しています。とはいえ、特にイスラム教徒の友人たちからの挑戦もあることも認めざるを得ません。それがマレーシアなのです。

ジョー主教
　ありがとうございました。ダナルド主教、それでは最初のゲストをお迎えする時が来ました。ダナルド主教、お願いいたします。

ダナルド主教
　ありがとうございます。それでは、バングラデシュ教会友人、スバジットさんにお話を伺いたいと思います。

スボジット・モンダル氏
　こんにちは、主教さまありがとうございます。私はスボジット・モンダルです。バングラデシュ教会のプログラム・ディレクターを務めています。私の奉仕活動は、全国の若者、女性、子ども、そして社会的に弱い立場にある人々との関わりです。この活動の多くは、他の宗教の人々と共同で行われています。なぜなら、バングラデシュでは、宗教間の関わりは選択の余地がなく、日常茶飯事だからです。バングラデシュは豊かな多様に満ちた文化を持つ国です。人口の約 90%がイスラム教徒、約 8%がヒンズー教徒で、少数派の仏教徒、さらに少数派のキリスト教徒、そして独自の伝統を持つ先住民族も数多くいます。
　私たちは村々で隣り合って暮らしていると信じています。イスラム教徒とヒンズー教徒が互いの祭りに参加し、収穫期や災害時には互いに助け合う光景は珍しくありません。宗教は時に政治化され、権力やナショナリズムの道具として利用されることもあります。過激派の声は時として分断を助長することもあります。特にキリスト教徒、ヒンズー教徒、仏教徒、先住民族といった少数派は、差別や土地の没収、強制結婚、さらには暴力に直面することもあります。それでも、一般の人々の回復力は私に希望を見出します。家族は宗教の垣根を越えて互いに支え合い続けています。地域のリーダーたちは、危機の際には草の根レベルで対話の場を持ちます。日々の連帯の行為は、分断のニュースよりも、日墓の連帯の行為がはるかに調和を保っています。

ダナルド主教
　宗教間関係において、未来への希望を感じさせるものは何ですか？

スボジット氏
　バングラデシュの教会は人口の 0.5%にも満たない非常に小さな規模ですが、私たちの貢献は人口比以上のものです。学校、病院、地域開発プログラムを通して、キリスト教徒だけでなく、すべての人々に奉仕しています。私たちは塩と光としての役割を果たし、宗教間の関わりは、私たちの宣教活動の中心です。国レベルでは、指導者たちがイスラム教徒、ヒンズー教徒、仏教徒との宗教間プラットフォームに参加しています。緊張が高まった際には、私たちは公の場で共に立ち上がり、平和と正義、相互尊重のメッセージを発信しています。
　第一に、一般の人々の回復力です。政治的・過激派の圧力にもかかわらず、バングラデシュのほとんどの家族は、異なる信仰を持つ隣人と平和に暮らし続けています。これは私に希望を与えてくれます。
　第二に、若い世代は古い分裂を乗り超えたいと願っています。彼らは正義と平等、相互尊重を切望しています。彼らのオープンな姿勢は、私にとって大きな励みとなっています。

そして第三に、私たちの信仰の神学的基盤です。「主は何をあなたに求めておられるか。それは公正を行い、慈しみを愛し、へりくだって、あなたの神と共に歩むことである。」、この聖句は、宗教間関係に直接あてはまります。私たちは神と共にへりくだって歩み、隣人に対して公正を行い、宗教の垣根を超えて慈しみを示します。素晴らしいことです。

ダナルド主教
私たちにとって、とても励みになりますね。それでは、アンドリュー・スミス司祭にご自身と次のゲストをご紹介いただきたいと思います。

アンドリュー・スミス司祭
こんにちは、ダナルド主教、ありがとうございます。本日は皆様とご一緒できて大変光栄です。アンドリューと申します。英国バーミンガム教区の諸宗教関係担当ディレクターを務めています。また、聖公会諸宗教委員会の書記も務めています。30 年以上、バーミンガムで様々な宗教の人々と共に暮らし、働いてきました。また、10 代の若者たちと様々な文化を結びつけ、友情を育む「ザ・フィースト」という慈善団体も設立しました。
それでは、次のゲストとして南アフリカからルイザ・モジェラさんをご紹介させていただきます。ルイザさん、ようこそ。

ルイザ・モジェラ氏
アンドリュー、ありがとうございます。

アンドリュー司祭
ルイザ、あなたは南アフリカで「ウィメンズ・インベストメント・ポートフォリオ・ホールディングス」を設立されましたね。その組織について、またあなたの役割についてお聞かせいただけますか？

ルイザ・モジェラ氏
ありがとうございます。ウィメン・インベストメント・ポートフォリオ・ホールディングス・カンパニーは、南アフリカが新体制を迎える直前の 1994 年に設立されました。私と他の 3 人の同僚は、女性、特に黒人女性が歴史的に主流の経済や金融サービスへの参加から排除されてきた過去があることに気付きました。そこで、女性として自らを奮い立たせ、女性として付加価値をもたらすと確信している経済分野に投資するための資金を調達したいと考えました。そこで 1994 年に会社を設立し、現在も存続しています。この会社は、女性が 100%所有・経営しており、これまでに 3 億ランド以上の配当金を分配してきました。また、女性と子どもたちのエンパワーメントを支援することを専門とする非政府組織も設立しました。素晴らしいですね。

アンドリュー司祭

それはすごいですね。お話いただき、ありがとうございました。では、他の宗教の女性たちとの仕事、そしてあなた自身の異なる宗教の人々との個人的な出会いについて、そしてそれがあなたにとってどのような意味を持つのかについて、お聞かせいただけますか?

ルイザ・モジェラ氏

異なる信仰を持つ人々との出会いは、私にとって非常に個人的な経験です。亡き夫はイスラム教徒でしたが、私たちは互いの信仰と宗教を尊重し合っていました。ラマダンの期間中は私が彼を支え、四旬節には彼が私と一緒に断食をし、クリスマスには私を支えてくれました。つまり、あらゆる宗教の祝日において、彼が私を支えてくれたように、私もイスラム教の祝日に彼を支えたのです。この経験が、異なる信仰を持つ女性たちとの協働へと繋がりました。ユダヤ教徒、ヒンズー教徒、イスラム教徒の友人たちがいます。もちろん、夫と義理の妹たちもそうですが、私たちはよく協力し合っています。私にとってこれは、分裂を招くのではなく、互いに協力し合い、架け橋を築くことの重要性を示しています。大切さを思い起こさせます。結局のところ、私たちは皆、唯一の偉大な神、唯一の創造主である神を信じているからです。私たちにできることは、互いに尊重し合い、尊厳を認め合い、支え合うことだけです。聖公会員になるために改宗する必要はありません。私もイスラム教徒になるために改宗する必要はありませんが、お互いを尊重しましょう。特に若い世代を支え、私たちを超越できるように、私たちがどのように力を合わせられるかを考えていきましょう。彼らは調和のとれた宇宙を信じています。

アンドリュー司祭

改めてありがとうございました。宗教を超えた協働についてお聞きし、本当に感銘を受けました。ルイザさん、未来を見据えて、あなたに希望を与えてくれるものは何ですか？

ルイザ・モジェラ氏

私に希望を与えてくれるのは、まさにこの協力関係の継続だと思います。ランベス・コールは、私たち聖公会員がキリストの弟子のように外の世界に出て、友情を築き、異なる宗教や信仰を持つ人々に橋を架け、協働するように促しています。このことは、この宇宙に生きる人間として、平和の種を蒔くためにもっと多くのことができるという希望を与えてくれると思います。なぜなら、私たちが協力し、橋を架け、互いを尊重し、すべての人に尊厳が与えられるとき、平和以外に何も存在しないからです。ですから、これは本当に私に希望を与えてくれます。素晴らしいことです。

アンドリュー司祭

本当にありがとうございました。ルイザさん、ありがとう。パウロさんにバトンタッチできることを大変光栄に思います。

パウロ・ウエティ氏

皆さん、こんにちは。パウロ・ウエティです。アビゲイル・リジーさんをお迎えできて光栄です。彼女は信徒奉仕者であり、アルゼンチンにおける諸宗教問題に関する代表を務めています。ブエノスアイレス在住で、聖公会諸宗教委員会のメンバーです。彼女をここに迎えることができ大変嬉しく思います。ようこそお越しくださいました。ありがとうございます。アルゼンチンと、あなたの国の様々な宗教について、そして教区におけるあなたの役割についてお聞かせください。

アビゲイル・リジー氏

パウロさん、ありがとうございます。アルゼンチンの皆さん、こんにちは。アルゼンチンは、他のラテンアメリカ諸国と同様に、16 世紀にスペインによる植民地支配が始まった結果、強いキリスト教の伝統を持っています。現在、私たちは多宗教的な環境に暮らしていますが、これは 19 世紀初頭の移民と様々な文化の融合によるものです。ヨーロッパからプロテスタントが伝わり、その後、アメリカの宣教師が福音派の信仰をもたらし、20 世紀にはペンテコステ派が取り入れられました。アルゼンチンには、先住民、植民地支配の生き残り、そして 19 世紀後半の自由主義経済政策の生き残りたちの宗教が正当化され始めた、ハイブリッドでダイナミックな宗教的背景があります。アルゼンチン人の 9 人に 1 人が神を信じていると主張しています。無神論は私たちの社会の大きな特徴ではなく、非公式の民衆宗教が人々の日常生活の一部となっています。超越的なものへの開放性は、アルゼンチンの文化的な基盤の一部です。現在の宗教分布を見ると、人口の 62.9%がカトリック教徒です。18.9%は無宗教としています。福音派は 15.3%を占め、ユダヤ教、イスラム教、歴史的プロテスタントなどの他の宗教は 3%を占めています。この状況は、多様性の拡大と無宗教の人々の増加の傾向を反映しています。最初のユダヤ人コミュニティは 19 世紀末に到着し、現在ではラテンアメリカ最大、世界でも 7 番目に大きなユダヤ人コミュニティを形成しています。イスラム教徒のコミュニティも、主にシリアとレバノンから到着し、他の宗教と平和的に共存しています。

2000 年以来、ブエノスアイレスにはラテンアメリカ最大のモスクがあります。彼らの宗教的遺産は、今日でもペンテコステ派の拡大という形で受け継がれています。ペンテコステ派は民衆の要求を喚起する触媒となり、伝統的なカトリックのキリスト教的感受性をこの新しい教会論的モデルへと移行させています。私たちは、宗教分野のダイナミズムは、信仰の文明化と個人化のプロセスによって影響を受けていると結論付けています。いずれにせよ、このキリスト教文化の基盤は、自由、礼拝、平和という多様な文脈の中で、言語、慣習、そしてイデオロギーに浸透し続けています。先ほど申し上げたように、私は現在、ブエノスアイレスの聖公会、善き羊飼い教会で牧会指導を担当する信徒奉仕者です。また、母国アルゼンチンの婦人連合の奉仕団体であるアマレのメンバーでもあります。さらに、異なるキリスト教宗派間の対話を促進する団体であるアルゼンチン・キリスト教会エキュメニカル委員会にも参加しています。

パウロ氏

このように多様な状況をご紹介いただき、ありがとうございます。教区の先住民に対する活動について教えてください。この伝道活動はどのように行われているのでしょうか？人道支援活動はどのように行われますか?

アビゲイル・リジー氏

そうですね、現在、私が所属するアルゼンチン中央・南部教区は、南米聖公会管区内の他の教区と協力して活動しています。アルゼンチンでは、北部教区にウィチ、トバ、チョロテといった先住民のコミュニティが含まれています。先住民への宣教は、ペルー、パラグアイ、ボリビア、そしてチリ聖公会管区の同じ管区にある他の教区を含む、横断的な活動です。私の国の聖公会は、地元の指導者が率いる先住民の人々で 90%を占めています。まず、「エル・グラン・チャコ」と呼ばれるこの地域は、アマゾンに次ぐ南米で 2 番目に大きな生態系を有し、大きな山、川、極端な気温、そして降雨量の少なさによる水不足を抱えていることを理解する必要があります。この地域は、貧困、栄養失調、乳児死亡率が最も高く、教育と公衆衛生においても深刻な問題を抱えています。そのため、成人の間で暴力やアルコール依存症といった深刻な社会問題が存在します。これらの問題は、土地、水、教育の不足と関連しています。そのため、19 世紀後半から聖公会がここに存在してきたことは、宣教というより広い枠組みの中で福音を宣べ伝えてきたため、変革をもたらしてきました。これらの人々への福音宣教は、制度化された勢力が介入するずっと前から行われており、人々の生存を可能にしました。福音はまた、尊厳を持った先住民としての自己認識を促すことで、解放運動と平等と正義のための闘争にも貢献しています。宣教活動は、聖公会の「宣教の 5 指標」に基づき、社会奉仕と神学教育を融合させ、牧会活動において包括的に活動しています。これは、先住民の声に耳を傾け、真剣に受け止め、固有の世界観を理解しようと真摯に配慮し、その人々の言語を学び、その固有の精神的視点から福音の解放をもたらす真理をもって応えることで、先住民との信頼関係を築くプロセスです。そのため、福音は新しい現実、イエス・キリストの導入であり、福音を伝える者と受け取る者との間の相互変革であると理解されています。先住民族への人道支援活動は、市民社会団体 ASOCIANA、聖公会、そして様々なキリスト教系および世俗系諸団体の努力を統合しています。土地は寄付によって購入され、ポンプと井戸の設置により水への権利が保証され、教育と農業研修も提供されています。織物や手工芸品の生産も奨励されています。これらの活動により、栄養状態が改善され、販売用の余剰が生み出されました。教会はまた、洪水などの気候変動による緊急事態にも対応し、家屋や健康への被害に対処し、生活の質の向上と地域社会の自立の促進に取り組んできました。

パウロ氏

アビゲイルさん、改めてプレゼンテーションをありがとうございました。最後の質問ですが、あなたに希望を与えてくれるものは何ですか？ご自身の置かれた状況における宗教間関係の将来について考えるとき、何が希望を与えてくれるのでしょうか？そして、他の人々にどのようなメッセージを伝えられるでしょうか？

アビゲイル氏

アルゼンチンは多宗教で友愛的な共和国としてその地位を確立しました。アルゼンチンの憲法はあらゆる文化を非常に受け入れやすいものです。開放性とホスピタリティは私たちの特質の一部であり、ここ数十年で、異なるキリスト教の伝統の間に存在していた、信仰の二次的な側面に関わるあらゆる現実的なリスクを克服してきました。私たちはイエス・キリストのメッセージとその実践の中心性を発見し、教会の普遍性を築き、受け入れることで、神の国のために働き始めています。私たちはこの努力にますます力を注いでいます。

パウロ氏

アビゲイル、そして本日インタビューにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今日のインタビューは私たちに多くのことを考えさせてくれました。皆さんが宗教間関係の呼びかけをより深く探求するきっかけになれば幸いです。ぜひ宗教間関係の呼びかけにアクセスして、その内容を振り返り、瞑想してみてください。このプロセスをサポートするために、ここでいくつか重要なリソースをご紹介したいと思います。同僚のスティーブン・スペンサー司祭にバトンタッチして、それらについて詳しくお話ししたいと思います。スティーブン、ようこそ。

スティーブン・スペンサー司祭

確かに、それぞれの場所で非常に異なる状況や課題、そして機会についてお話を伺いました。しかし、イエスはそれぞれの場所でどうなさるでしょうか？これは常に問いかける価値のある問いですよね。そこで、この問いへの答えを考えるために、ヨハネによる福音書 4 章にある素晴らしく、示唆に富んだ箇所について聖書研究を行いました。ご存知のとおり、イエスは喉が渇いていました。サマリア人の町の井戸のそばにいたイエスは、水差しを持った女性に井戸から水を飲ませてくださいと頼みます。もちろん、イエスはユダヤ人で、女性はサマリア人でした。二人は異なる国、異なる信仰を持っていました。双方は異なる信仰を持ち、国家間でも敵対し、二つの民族の間には激しい憎しみがありました。しかし、イエスはそれを脇に置きました。イエスは飲み物を必要としていました。彼も人間であり、傷つきやすい存在でした。イエスはそこにいました。彼女はイエスを助けることができ、イエスは彼女と会話を交わしました。その会話を通して、神学的、霊的な意味の深淵が深く探究されたのです。これは、それぞれの状況において多くのことを学べる素晴らしい聖書箇所です。そこで、グループで、あるいは個人でお使いいただける聖書研究をご用意しました。聖書箇所の背景、質問、そして考えるためのヒントが書かれています。どうぞご自由にお使いください。聖書研究へのリンクをお送りしますが、ウェブサイト https://www.lambethconference.org/multi_language_dl/bible-study-resources-inter-faith/ ですでにご覧いただけます。また、もちろん、本日すでに言及されているように、ランベス・コール自体もお読みください。このトピックのすべての問題についての非常に充実した入門書と入門書となっているためです。

https://www.lambethconference.org/multi_language_dl/lambeth-call-paper-interfath/

ジョー主教
　スティーブン、ありがとうございます。それでは質疑応答の時間です。最初の質問はスバジットさんにお伺いします。英国ロンドン郊外のハローから、ヒンドゥー教徒が大多数を占めるコミュニティの中心にある教区の住人です。彼女は、教区が近隣の人々にキリストを証しし、手を差し伸べることを強く望んでいます。ヒンドゥー教徒と信仰を分かち合うために、どのようなアドバイスをされますか？

スバジット氏
　異なる宗教、特にヒンドゥー教徒の隣人同士が、食事を共にしたり、お祭りや地域のイベントに参加したりすることを奨励することです。実際、調和は形式的な対話だけでなく、日々の友情を通して育まれるものです。

アンドリュー司祭
　素晴らしいですね。何か付け加えたいことはありますか？

アンドリュー司祭
　バーミンガムにはヒンドゥー教徒がたくさんいます。私の家のすぐ近くにマンディラが7つほどあるので、とても素晴らしいコミュニティです。私はマンディラで多くの時間を過ごしますが、皆さんもご存知の通り、ヒンドゥー教は非常に複雑な宗教なので、関わるのは本当に難しいです。スバジットさんが言ったように、私はヒンドゥー教徒と一緒に過ごし、彼らの話を聞くことに多くの時間を費やしてきました。しかし、キリスト教徒として、イエス・キリストは神の唯一のみ子であり、単なる多くのみ子の一人ではないという信念をしっかりと持ち続けなければならないので、これは難しい会話になることもあります。しかし、彼らが友人であり、彼らがマンディラに座っているとき、たとえ意見が異なっていても、私はこう信じていると伝えることができました。彼らはそれをとても尊重してくれていることに気づきました。カリとジョーは輪廻転生についての彼らの深遠な哲学を理解しています。私はそれに賛同しませんが、その深遠さ、そして復活の意味とそれがいかに異なるかを探求することは、本当に深い対話をする方法でした。

ジョー主教
　アンドリュー、ありがとう。次はアビゲイルさんへの質問です。モーリシャスからの質問です。私の国では、異なる信仰を持つ人々が平和に共存しています。しかし、私たちキリスト者は、神、信仰、そして主は一つであることを知っています。ですから、教会とどのように協力し、平和な関係を維持し、神のみ心は一致と愛をもたらすことにあると受け入れるよう促せるでしょうか。

アビゲイル氏
　問題は、イエスが周囲の人々の中でどのように行動されたかということです。ローマ帝国時代に、イエスはヘレニズム、フェニキア、サマリアの人々と出会いました。イエスは謙虚に、神がどのような方であるかを示されました。神は慈悲深く、癒しと解放のために来られたのです。私は、それは言葉や言葉ではなく、行動によって示されると信じています。私たちは、信仰の基盤において、何を信じているかを示すことができます。私たちは対立したり、議論したりするのではなく、出会い、分かち合い、共に歩むのです。ここは、人々が交流し、出会う場所です。

ジョー主教
　ありがとうございます。アビゲイル、グラシアス。では、ダナルド主教、続けてください。私はイギリスのウェスト・ヨークシャーに住んでいますが、マレーシアでおっしゃったのと同じくらい、約 60%がイスラム教徒である地域を担当しています。主教は、イスラム教の指導者と関わるのが非常に難しいと感じていると言っています。彼らにとって、何かアドバイスや知恵があればお聞かせください。

ダナルド主教
　ありがとうございます。そうですね、マレーシアとは状況が違うので、特にお伝えできる知恵はありません。マレーシアでは、私たちは 60%の人口構成ですが、彼らが権力を握っています。彼らが政治権力です。一方、マレーシアの状況は少し違いますが、いくつかお話ししたいと思います。まず、どんな宗教間活動でも、他の宗教の人々への働きかけでも、その割合に関わらず、私たちの側から多大な投資が必要です。もし私たちがそれを始めたいのであれば、時間、エネルギー、場合によってはお金も投資する必要があります。しかし、一つ提案させていただければ、それは信頼関係を築くことです。例えば、ちょっとしたもの、例えば食べ物を送るのはどうでしょうか。例えば、彼らがイードやラマダンを祝っているなら、挨拶をして、ハラール食品を持っていくことを申し出て、ハラールであることを保証してください。自分で調理するのではなく、ハラールショップで購入するのです。そして、小さな行為から始めてください。ブラッドフォードのトビー・ハワード主教を知っています。彼はイスラム教徒やその他の人々と多くの活動をされていますので、もしご紹介できれば、この地域で一緒に歩んでくださることを大変喜んでくださると思いますし、近くにいらっしゃいます。ぜひお伺いしてお話を伺いたいのですが、トビー主教がそちらにいらっしゃいます。ありがとうございます。

ジョー主教
　それから、ダナルド主教、ご存知ないかもしれませんが、トビー主教は今ウェビナーに参加されているとのことで、ライブ接続でお話を伺っています。こんにちは、トビー。ルイザさんへの質問です。危機は人々を団結させて困難に立ち向かわせることもあれば、様々なグループに責任を押し付けることで人々を分断させることもあるようです。どうすれば、

コミュニティを分裂ではなく協力へと向かわせることができるでしょうか？そして、何が違いを生むのでしょうか？

ルイザ氏

個人的には、ダナルド主教が先ほどおっしゃったように、ラマダンやイードの期間中のちょっとした行動が違いを生むと思います。イスラム教徒の例を挙げましょう。ハラールの食べ物を送るだけでもいいですし、簡単な挨拶でもいいのです。イスラム教徒の良いところは、特にラマダン中は、彼らを見分けられることです。「サラーム・アレイコム」という簡単な挨拶でさえ、大きな違いを生み出します。私たちキリスト教徒も、宗教的な祝日には同じように挨拶を交わすべきです。難しいことではありません。ユダヤ教徒の場合も、彼らの宗教的な祝日は知っていますので、簡単な挨拶を交わすことができます。私が何度も言っているように、これは協力や橋渡しの始まりだと思います。ランベス・コールの鍵は、どのようにしてこうした橋を架けるか、異なる宗教の間でどのように友情を広げるかということです。そして私の最大の信念は、誰かを改宗させることが目的であってはならないということです。なぜなら、私たちは皆、それぞれの信仰を持っているからです。私は聖公会で生まれ、今も聖公会員であり、イスラム教徒と結婚していますが、それが私のアイデンティティを変えることはありません。機会があれば、聖公会の教区での活動や、ACC のメンバーとして、あるいはローマの聖公会センターのメンバーとして何をしているのかについてお話しします。皆さんと情報を共有してください。もう一つ強調しておきたいのは、南アフリカは非常に世俗的な国ですが、信仰と宗教のすべてが憲法に定められているという素晴らしい点です。つまり、私たちは皆、信仰と信念に関して平等な立場にあるということです。

ジョー主教

ルイザさん、ありがとうございます。お話の中で、とても明白なことを付け加えさせていただければと思います。それは、あなたが紛争を恐れていないということです。あなたは紛争の真っ只中に踏み込み、平和と和解をもたらし、橋渡し役となるのです。これはイエスに従う明確な方法の一つです。ところで、次回のランベス・コールは和解についてです。興味のある方はぜひご覧ください。さて、次の質問はアンドリューさんです。承認欲求に駆られ、より伝統的な宗教の信者を巻き込んで地位を得ようとするカルト集団と、私たちはどのように関わっていけばいいのでしょうか？個人的にはよく知らないのですが、オウム真理教という例があります。ご存知かもしれませんが、日本のオウム真理教ですよね？

アンドリュー司祭

日本にはそのようなカルト集団はいませんが、サイエントロジーやモルモン教、統一協会など、すぐ近くにいる人たちがいますね。おっしゃる通り、この質問は日本から来たものです。ありがとうございます。そうです。ここのすぐ近くに、サイエントロジーの非常に大きな教会が建設中です。バーミンガムには確かにあらゆる人々がいます。そして、彼らが

しばしば異宗教グループに参加したがり、しばしば少数派宗教も参加して、自分たちの存在を認めてくれる場所を探しているというのは、興味深い課題です。ジャイナ教徒やバハイ教徒も、こうしたグループに自分たちの存在を認めてもらえる場を求めています。もちろん、これらはより確立された宗教ですが、私たちの文脈では、同じように小さく、はるかに大きな宗教の中で自分たちの声を届けられる場所を探しているのです。状況は時に複雑で、誰とプラットフォームを共有するかについて、非常に賢明にならなければならない時があります。他者の差別に加担すべきではないと認識しているからです。そして、迫害されているアフマディーヤのようなグループにとって、これは本当に重要だと思います。私たちは差別に加担するだけでなく、公の場で、これが他者にどのような存在を認めているのかを、賢明に考える必要があります。時には、会って写真を撮られたくないと伝えなければならないこともあります。私も何度かそう言って、「お会いできて嬉しいですが、政治的に非常に複雑なので、プライベートな場でお願いします」と伝えました。でも、皆さんを一人の人間として、そして人として見てみたいと思います。統一協会で知り合った 1、2 人とは、子育てや人生について語り合い、人間として会って、私たちは皆人間であり隣人であり、隣人を愛するように求められているという思いを抱き続けてきました。しかし、時には政治的にも公の場でも、非常に賢明でなければならないこともあります。「そこに行けない、写真に問題が出る」と断ることもあります。これは本当に難しいことですが、プライベートと公の場の間のバランスをうまく取らなければならない時もあります。

ジョー主教

アンドリュー、ありがとうございます。ダナルド主教、これは少なくとも最初はあなたにお願いです。フィリピンから来たものです。誰から来たのかは言いませんが、フィリピン、特にフィリピン南部のイスラム教徒との辛い経験をした人です。フィリピンには傲慢さと敵意があり、それゆえに境界線が引かれています。それが非常に困難を招きます。こうした態度や騒動を踏まえて、彼らとどのように接したらよいか、何かアドバイスはありますか？

ダナルド主教

フィリピンの親愛なる友人の皆さん、この質問をありがとうございます。まず、皆さんがそこで経験している苦しみ、時には虐待、そして迫害に共感します。皆さんは彼らと友達になりたくないと思うでしょう。私も時々そう感じます。一生懸命頑張っているのに、次の瞬間には教会が焼かれたり、教会への道が閉ざされたりするのを目にするのです。本当に同情します。私たちに何ができるでしょうか？他の友人、キリスト教徒の兄弟姉妹と協力してください。一人で活動することも、一人で歩むこともできません。フィリピン南部の状況は、時折、単なる混乱にとどまらず、それ以上の事態を引き起こすことがあります。しかし、私たちは福音に忠実であり、私たちの中にあるキリストの愛を忠実に示すよう努めなければなりません。そして、その愛があれば、私たちは愛と肯定、感謝、そしてある程度の敬意を分かち合えると信じています。ここで「ある程度の敬意」という言葉を選びました。

なぜなら、それは大変なことだからです。皆さんの状況は大変です。私たちは皆さんのために祈ります。皆さんにも、私たちと他の人々のために祈っていただきたいのです。

ジョー主教
　南アジアには連帯感が感じられます。さて、次はスボジットさんにお伺いします。リバプールからご挨拶申し上げます。改宗の問題は、宗教間対話にどの程度影響を与えるのでしょうか？

スボジット氏
　すべての宗教は、思いやり、誠実さ、そして敬意を教えていると信じています。これらの共通の価値観を強調することで、私たちはそれぞれの独自性を失うことなく、一体感を見出すことができます。ですから、私の意見としては、対話において、特定の宗教の誰かを改宗させる必要はありません。私たちの考えや教えを共有することができます。そして、違いを脅威と見なすのではなく、色の違いのように、私たちの人生、信仰、そして信念を豊かにする贈り物と見なすことができると信じています。ですから、改宗ではなく、分かち合うことを提案します。

ジョー主教
　スバジットさん、ありがとうございます。改宗について他に何か発言したい方はいらっしゃいますか？もう一つ質問がありました。特に、世界の一部の地域で深刻化しているキリスト教徒とユダヤ教徒の関係についてです。アビゲイルさん、これはアルゼンチンにも関係があるのでしょうか？ユダヤ教徒とキリスト教徒の関係についてですか？

アビゲイル氏
　はい、歴史的に私たちはユダヤ人と非常に平和的な関係を築いてきました。そして、彼らから信仰の一部を受け継いでいるため、共通の信仰を持っています。メシアという点、つまりイエスをメシア、あるいは預言者として認めるという点において、私たちは共通の信仰を持っています。ですから、私たちは調和のとれた、敬意ある関係を築いています。なぜなら、これは共に義務を分かち合う和解への道だからです。

ジョー主教
　アビゲイルさん、ありがとうございます。他にキリスト教徒とユダヤ教徒について発言したい方はいらっしゃいますか？わかりました。また質問を続けましょう。もう一つ質問がありました。ルイザさんへの質問です。すべての宗教において、より高次の力が存在するかどうかという共通の絆は存在するのでしょうか？

ルイザ氏

そう思います。至高の力という共通点があります。なぜなら、私の見解では、イスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒など、あらゆる宗教を見てみると、私たちは皆、全能の神を信じています。私たちキリスト教徒に関しては、違いがあるかもしれません。なぜなら、私たちは主イエス・キリストも崇め、聖霊、三位一体を信じているからです。一方、他の宗教は全能の神にのみ焦点を当てます。ですから、確かにそうだと思います。ヒンズー教徒や仏教徒も至高の力を信じています。アブラハムの宗教とは異なるかもしれませんが、彼らも確かに至高の力を信じています。

ジョー主教

ありがとうございます。もう 1 つ時間があるので、アンドリューさんに質問します。宗教間関係に関するこの議論の根底にある問いは、あらゆる宗教への寛容と尊重の呼びかけと、世界にキリストを宣べ伝えるという呼びかけとのバランスをどのように取るか、ということだと思います。

アンドリュー司祭

ありがとうございます。その通りです。まさにこれが、私たちが共に歩むための根本的な核心だと思います。異なる信仰を持つ人々を寛容に受け入れ、共に歩み、彼らの信仰を認めることについて、私たちはこれまで様々な議論をしてきました。そして、アングリカン・コミュニオンとして、改宗と改宗の課題についても議論してきました。私たちはこの 2 つのことを大切と考えています。そして、個人としても、この 2 つのことを大切と考えています。私はいつも、イエスが語る偉大な戒めに目を向けています。イエスはヘブライ語聖書を引用して、この戒めのバランスについて述べています。それは、心を尽くし、思いを尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、その意味するところすべてにおいてイエスの忠実な弟子でありなさい、しかし同時に、隣人を自分自身のように愛しなさい、というものです。この戒めは無条件です。もしイエスが「もし」と述べて、いくつかの条件を挙げてくださっていたら、もっと容易だったでしょう。今日耳にするような非常に困難な時代に、私たちはどのようにこの戒めを守るべきでしょうか？これがどれほど難しいことか、私たちは軽視してはなりません。しかし、愛、神、愛、隣人、このバランスこそが重要だと思います。どちらか一方だけを守る方がはるかに簡単ですが、この偉大な戒めを共に守り続ける方法を見つけることができれば、私たちは真に召されている場所へと向かう道を歩んでいると言えるでしょう。

ジョー主教

アンドリュー、どうもありがとうございました。世界中の皆さん、このウェビナーももうすぐ終わりです。たくさんのことをお話ししました。ランベス・コールの「宗教間関係」に関するディスカッションの旅を始めました。ぜひ改めてお読みいただき、さらに深く掘り下げるためのリソースもご用意しています。グループでご参加の場合は、チャットに表示されるメールアドレスを使って、このコールについてご自身の体験談を共有してください。

最後に、11 月に和解をテーマにしたこのシリーズの最終回ランベス・コールを開催することをお知らせします。詳細は近日中にお知らせいたします。ご参加ありがとうございました。ダナルド主教、このウェビナーに集う私たち全員のためにお祈りいただけませんか？

ダナルド主教

皆様、本当にありがとうございました。ご質問の一部にお応えできなかった場合は申し訳ありませんが、時間となりましたので、お祈りをさせていただきます。愛する天の父なる神よ、私たちは再び、あなたが私たちと共にいてくださることに感謝しながら、あなたに参ります。このウェビナーの間だけでなく、あなたのみ名のもとで行うすべてのことにおいて、私たちと共にいてくださいますように。そして、このウェビナーを終えるにあたり、私たちを励まし、祝福し続けてくださいますように。そして、あなたのみ名の栄光のために、私たちをお使いくださいますように。イエス・キリストのみ名によって。アーメン。